

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内に掲示し、またチームLINEにおいて常に確認できるようになっている。また、管理者と職員はその理念を実践を通して共有している。	事業所の理念として「入居者様のニーズを理解・尊重し、より良いサービスを提供出来る様に努めます」とあります。この理念はLINEで常に確認出来ます。職員が支援の場で悩んだ時は管理者が理念に立ち返り一緒に話合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設の立地を生かし地域の皆様の役立つような情報を発信し認知症相談をしている。町内会に入会しており町会の行事に参加している	理念の一つとして地域密着型を「地域の方々との信頼を築き、交流していけるホームを目指します」と示しています。この理念を事業所の扉や地域の掲示板に掲示しています。地域の人から「この」チラシが欲しいという要望もでてきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括が主催の地域ケア会議に毎回参加し認知症介護の困難事例などの相談や意見交換を行っている。(リモート)また松戸市認知症初期支援チームにも参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より運営推進会議を2ヶ月に1度直接開催している。御家族様のご要望などの話し合いなども行っている	運営推進会議では、利用者から「いままでの看取りについて家族の反応を聞きたい」という要望があり、運営推進会議に看取りをおこなった家族を招き話を聞き、話し合う機会を設けたり、地域の要望に応えるよう努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症報告、事故報告・ヒヤリハットに対する専門的な意見を伺うと共に助言、相談を頂いている。松戸市運営指導にて指摘事項なしは日頃から細やかに連携を取らせていただいている事の証と思っています。松戸市介護相談員も再開	市へは、感染症報告、事故報告・ヒヤリハットについてなど日頃から報告をこまめに行い、担当者の意見を聞く機会を設けています。運営に関して市から特段指摘事項がないのはその成果と言えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正委員会を設け年に4回、身体拘束と虐待を含めた内部研修(回覧)をさせていただいた。入居前で身体拘束があった方も入居日から身体拘束等をしていない取り組みをおこない、その実践をおこない実績がある	身体拘束等適正委員会を年に4回、回覧方式で開催しています。職員へのアンケートを実施し、理解が不十分と思われるところについては個別面談で理解の促進を図っています。多くの職員が参加できるようオンライン研修も行っています。	アンケートを行い、理解が不十分と思われるところについて個別面談でフォローしている点をさらに進めていただきたいと思っています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の態度や言葉使いも含め不適切なケアに関しては職員に直接指導を実施している。入居者様からの情報をもとにありのままを記録にのせさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県で行っている権利擁護と身体拘束廃止研修(基礎・専門・管理者)を終了している職員が在籍している。資料等の回覧をおこない情報を共有しケアに活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	対面面談をおこない契約時に契約書の内容を説明し、確認をさせていただいている。また、補足説明や疑問などにお応えしている。コロナ禍にて先に郵送し読んでいただき契約時に再度重要点の説明をさせていただく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様がやりたい事をおこなっていただけるように常にご意見を伺う努力をさせていただいている。御家族様に関しては運営推進会議の意見聴取にてご意見を伺う機会を設けている	事業所の運営について、利用者・家族の意見を反映するために、意見が出ると、できるだけその場で実践していく努力をしています。特に利用者家族からは運営推進会議で意見聴取の機会を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議の文章での会議を開催している。管理者がコメントにて回答している。議事録にて職員間で回覧している	フロア会議は文書を回覧して会議をしています。出た意見に対しては管理者が文書にコメントして回覧しています。ただ、これでは意見交換が一方通行になるおそれがあるので、意見が出た時は個人面談を行っています。	出来るだけ早期に必要な人が一堂に集まって意見交換できる方法を復活させることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行いその後管理者評価をし面談を実施している。処遇改善加算や特定処遇改善加算、ベースアップ加算などの割合を職員に提示し算定し支給できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームLINEにて研修の案内をしている。また研修に積極的に参加していただけるようにジョブメドレーをもちいた研修を開始している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市グループホーム協議会の会議に参加したり研修にて交流をはかり意見交換しながら施設に反映できることを生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで暮らしてきたご自宅への訪問や、御本人御家族との面談を行い家族との関係が途切れないように努めている。入居前に御本人と面談させていただきお困りごとやご要望の聞き取り調査をさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談には時間をかけて丁寧におこなっている。ご心配しているご家族にはご要望があればご様子をメールや電話でお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談をもち聞き取り調査をおこなっている。幅広い情報網をもち支援に繋げている。マッサージやリハビリや訪問歯科等の支援もおこなっている。また松戸市介護支援センターとの連携でサービス対応の幅をもっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが相談にのっていただく機会を設ける事や社会ニュースなどを共に共有し共に会話するように努めている。生活でできる事はさせていただけるようにサポートさせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人がご入居したことで孤立しないようにご家族との絆を繋げていけるように支援させていただいている。御本人を中心とした会話を常に大切にしながら心掛けている。また個人の携帯電話も可能とさせていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会緩和や御家族様の外出や外泊も実施している。またコンサートに職員と共に参加している。	利用者と家族の面談の規制の緩和や、利用者が家族と出かけたり、利用者の外泊もできる様にしています。利用者が職員と一緒にコンサートに行くこともあります。	利用者の馴染みの場所や人との関係を聞き出し、リストにし、その関係を保つことが実現できたときは記録することで利用者の交流を保つことに役立ちます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り入居者様同士の関係が希薄にならないように支援している。個々のパイプ役になれるように支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者様はここで最期をお迎えになられている。その後御家族様が別の介護をしている方がいましたら引き続き相談にのっている。ご退去された入居者様の御家族が時折訪問して下さる		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしを御本人が伝えられない場合は御家族様に伺い、その方らしい生活を模索し支援に勤めている。また御理解をいただければご家族には家屋調査を実施させていただいている	利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めて、その結果を写真にしたりして職員が共有出来るようにしています。家屋調査をしているということは、一つの特徴ですが、その情報をどのように支援に活用するのか期待が持てます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認定情報などを随時取り寄せる。またこれまでのケアマネジャーにお話を伺う。御家族にも聞き取り調査をおこない把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを取り入れ、ご本人の能力を生かすことができるような支援をしている。また、新たに出来ることをアセスメントし、活動を継続できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員に回覧し記入していたいている。それによって介護計画書の見直しをかけた新たな介護計画を作成している。	利用者がよりよい暮らしができるように、本人、家族、必要な関係者がチームで話し合い、現状の支援計画を見直し、利用者の現状に即した介護計画を取りまとめています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や、申し送りにて職員間の情報共有を行っている。生活リハビリ等を通して新たな課題、提案、工夫などについても記録に残し、担当者会議において、情報の共有を図り、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が認知症高齢者でお困りごとなどがあれば直接ご自宅へ伺い状況を確認し相談にのっている。入居者様の帰宅願望等に対応し外出支援(自宅)をさせていただいている。また地域の出前などもご要望にて利用させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	松戸市の介護支援センターを利用している。福祉用具や歯科の助言をいただいている。また地域医療との連携を図り24時間の在宅医療や専門医など利用させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療は個人契約となっている為、ご家族様が選択している。ICTを使用し介護と医療が連携し情報の共有を行っている。また、医師の指示による専門医への受診・往診もご家族様同意の上看護師が適時、同行支援をしている。	医療機関受診は個人契約とし利用者の家族が選択しています。家族の同意を得て看護師が適時専門医(ドクターランド松戸)への受診・往診に同行支援をしています。松戸市の地域 ICT を使用することで、利用者の記録に関して情報共有できるメリットがあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携体制によりオンコール体制の確保をしている。個々の入居者様の変化を報告し適切な看護を受けられるように常に相談や助言をいただいている。適時、蒼生看護師が状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときにはサマリーにて情報を提供している。入院された場合にはそのご様子をナースが把握に努め、出来るだけ早期に退院できるように働きかけている。早期退院に向けてケアマネと病院SMWと連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の段階で生死感の考え方について書面で聞きとる事やACP(人生会議)を重要視し、チームで支援に取り組んで行く。ご家族様には「永別のしおり」を渡し、お話をさせていただくと共に地域で暮らして来た関係者と共に支援している。	入居時、重度化や終末期に向けた対応指針の説明及び同意書に家族の署名を得ています。専門スタッフがチームで支援に取り組んでいます。家族には「永別のしおり」を渡し、地域で暮らしてきた関係者とともに支援しています。人生会議(ACP)を重要視し、昨年ご夫婦の利用者を共にお看取りした際はしっかりと生死感を伝え叶えることができた事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護と医療の細かいマニュアルを用意し、それらが実践できるように指導している。また、迷いがあるときは連絡体制を1本化してすぐに相談できるようにしている。オンコール体制を実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や自衛防衛組織をシフト表に毎日更新し災害に備えている。防災及び救命救急委員会を置き、防災頭巾に認定情報や薬情報を備え付け、情報についても日々更新している。町内会との連携を擦る為BCPの話し合いに町会長さんも参加していただき説明をしていただいている	避難訓練(地震・火災・停電対応)を年2回実施し、消防署へ報告しています。利用者(車椅子の方も)全員参加で行なっています。職員は自衛消防組織任務表を毎日確認し防災・救命救急委員会設置。廊下の壁に掛けた利用者のための防災頭巾にはフォルダー内に認定情報や薬情報を収め、日々更新しています。運営推進会議では町内会長にBCPについての理解を求め、地域との連携を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や願いを最大限に尊重し、入居者様の人格や誇りを傷つけないような接し方言葉遣い・態度・配慮を心掛けている。職員間は専門用語を使用し、入居者様に配慮した伝達を行っている。	高齢者のプライバシーや身体拘束に関する研修をオンライン(ジョブメドレー)で受け振り返りもしています。職員間の伝達方法は、利用者の人格を尊重した接し方や言葉遣いに配慮しています。例えば尿をハルン、便をコートなどの専門用語を使い、利用者の名前をイニシャルで申し送りするなど工夫しています。離床介助により寝たきりにならないよう支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも出来るだけ自己決定できるように支援している。それぞれ個別に入居者様と話し合い決定することを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し起床時間や入床時間また食事時間など日々変化のある暮らしに職員が対応出来るように決定し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容に来ていただいている。本人の意向に合わせたお洋服の選択お化粧が出来るように支援などをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付けまで、残存能力を毎日生かしていただけるように支援している。行事食など入居者様の意見を聞きながらメニューを決定している。入居者様が一人一人食べたい時に食べたい物を食べられるように支援している	包丁を研ぐ、野菜を切る、食事の取り分けなど、利用者の残存能力を生かしたお手伝いができるよう支援しています。利用者は希望を出したメニュー(鍋や出前のばらちらし等々)を楽しみ、食べたい物を要望すると近くのスーパーに直ぐ買い物に行くことがあります。利用者一人ひとりが食べたい時に食べたい物を食べられることを実現できています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定・血液検査での栄養状態の把握・本人の状態に合わせた食事の提供。必要時には水分カウントの実施を行い月に一度管理栄養士の職員が施設全体をみている。医師と相談した上で、様々な事を検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態を良好に維持出来るように歯科衛生士に個別に口腔ケアの指導をして頂き口腔ケア介助を皆様におこなっている。1日3回の口腔ケアの実施をし口腔内を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを個々に把握し入居者様がトイレでの排泄による成功体験を積むことでオムツから布パンツへ変更している事例がある。出来るだけオムツにしない取り組みを常に模索している	毎日の排泄記録で個々の利用者の排泄パターンを理解し、トイレでの排泄を成功体験にしてオムツから布パンツへ変更した事例が幾つかあります。職員は出来るだけオムツにしない取り組みを常に模索しています。失敗した利用者に対しては失敗したものを見せないように配慮し(トイレに新聞とゴミ箱を設置)職員はスムーズに後始末をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの大切さを理解し、24時間の排泄表を利用し個々の便秘対策を検討している。運動や水分アップ、オリーブオイルや牛乳やヨーグルトなどを提供している。水分摂取が難し方にはジュレなどで毎日提供させていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は拒否があれば職員の都合に合わせてはならず、入居者様の気持ちに合わせてられるよう支援している。また、その日の体調に合わせて判断ができるように指導している。毎日入浴が可能である。	入浴チェック表にて一人ひとりの入浴、シャワー、機械浴(リフトキャリー)、清拭、拒否などの状況を把握しています。毎日入浴可能で、利用者のニーズをくみタイミングをみて入浴を楽しめる支援をしています。機械浴や椅子型を活用することで、職員の負担が軽減しています。利用者のその日の体調に合わせて一人20分～30分位同姓介助もできる体制で支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が眠れないときは、日中の過ごし方を考えて支援している。明かりや室温・音楽などで環境を整えている。居室で休めない場合は就寝場所もその方が安心して休める場所で休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に向けた薬のセット及び誤薬防止の為の服薬マニュアルがある。新しく処方された薬は申し送りノートにて各職員に周知徹底している。薬剤師が随時訪問し、往診に立ち合い、ICT化によりいつでも職員は薬情を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の生活歴や好みを理解し、生活歴を生かした役割を担って頂く。今までに続けてこられた生活習慣は継続できるように支援している。また、生活リハビリで新たな役割を担って頂き、楽しみのある生活ができるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内のお花を見に行くなどの個別対応も行っている。またご自宅を見に外出できるようにご希望があればお出かけをしている。また職員と御家族様のコンサートにも出かけている	利用者の皆さんで散歩することは避けています。職員は利用者の話を聞くなどコミュニケーションをしっかりと取り、どのような外出ができるか個別に合わせた提案をし対応を心がけています。管理者(時には職員が)は利用者18人中7人の外出に同行(長時間のコンサート、自宅、施設周辺、買い物など)しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出にてお支払いを自らしていただけるようにしている。お金がないと不安になれる入居者様には御家族様了承され持参していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由にTV電話等で話している。またホームの電話もいつでも使用可能としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭やベランダには季節の花を植え室内は季節感を感じられる様な装飾をしている。各ユニットに水槽や観葉植物があり、寝たきりの方は音楽をかけ自律神経の症状改善効果が期待されるものや心地よい音楽などを選択している。	植栽がよく手入れされた玄関脇には手作りのフォトスポット(ベンチと置物を設置)が目にとまります。利用者が集う居間・食堂には季節感を感じる装飾(利用者も一緒に作成)がいくつもあり、水槽や観葉植物を置き、職員が犬やウサギなどの動物を持ち込み、利用者が触れ合う時もあります。自律神経を整える音楽や童謡、昭和の流行歌なども流れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士お話ができるように配慮している。テーブル席には、御本人の馴染みの物などを配置し、自由に利用できるよう工夫している。またご夫婦2名お迎えさせていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、本人が過ごされていた自宅に伺い、家屋調査を行い入居者様が長年使い慣れた家具や、愛着のある置物、思い出の写真などを居室に配置し、安心して過ごせる心地よい空間作りを支援している。	利用者が入居前に生活していた自宅を何回か訪問し使い慣れた家具(仏壇など)や愛着のある物(掛け軸やぬいぐるみ、箒、庭の写真など)を居室に配置して安心して過ごせる心地よい空間づくりを支援しています。ある居室の壁面には家族から届く絵葉書や手紙を写真と共にボードに掲示し利用者のやりたいことを実現する支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるような表示また本人の居室が分かるような表示をしている。また台所は入居者様が分かりやすい配置にさせていただいている。洗面所は低い高さの物も設置している		